

体表への物理刺激と体内状態変化

キーワード: 感覚生理学 自律神経生理学 中医学 針灸学 組織学

人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系 感覚工学 會川義寛

E-mail: aikawa.yoshihiro@ocha.ac.jp URL: <http://kankak.eng.ocha.ac.jp/> TEL:5978-5743

体表のある特定部位を、温めたり、冷やしたり、押したりすると、身体には、同じ刺激を他の部位に与えた場合と異なる効果が現れることがあります。

発熱したときは額を冷やします。悪寒がするときには首筋の下当りを温めます。腹痛がするときには、服薬よりも、おなかを温める方が効果があるときがあります。この様に、刺激する部位は任意ではなく、特定性があります。

また、おなかに針刺激をすれば胃の運動を抑制しますが、足三里に同じ刺激をしますと運動を促進します。すなわち、同じ刺激がその刺激部位によっては逆の効果を与えることもあるのです。

したがって、刺激の種類（温熱刺激、機械刺激、化学刺激、電気刺激など）や、刺激の強度（温度、圧、電流、刺激時間、刺激面積など）、刺激の部位（体幹か四肢か、運動点か圧痛点か、など）を巧みに選択することによって、種々の器官や臓器に対して、異なる効果を期待することができるでしょう。

そのメカニズムを検討することにより、各身体状態に対する適切な体表刺激の処方が行なえる様になることが期待されます。